

愛媛教職員組合研修会 「えひめ冬物語」

2017年2月11日(土)、研修会「えひめ冬物語」をホテルクラウンヒルズ今治で開催しました。その内容をお知らせします。

1 オープニングセレモニー 弾き語り：ガチャピンの相棒



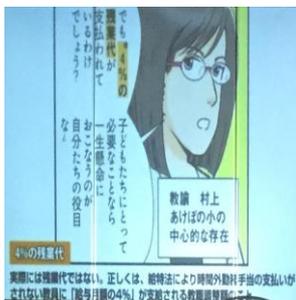
熱意の演奏

「わたし」 詩:こちみさん ・ 曲:ガチャピン

♪ 私らしいってなんだろう? 私らしくない あの人言った でも それは 私だ
紛れもない 私だ らしさなんて 三段跳びで飛び越えて行こうよ 誰にもつかま
られないわ 私はいつでも万華鏡 幻滅されても 新しい私よ こんにち
イメージ壊れても 新しい私よ こんにち (ガチャピン補作) ♪

2 DVD視聴 「あなたの職場では、ルールが守られていますか？」

ーワーク・ライフ・バランスのとれた職場を作るためにー



場面抜粋 「7時30分からの登校指導によって勤務時間が実質的に30分長くなっているんですね。これがあたりまえと思われているのって、ちょっと変じゃないかしら？」
「でも **4%の残業代**が支払われているわけでしょう？子どもたちにとって必要なことなら一生懸命におこなうのが自分たちの役目なんじゃない？」

「**4%の残業代**…実際には残業代ではありません。給与月額の**4%が支給される教職調整額**のことです。勤務時間外も含めて教員の仕事全体を評価して支給されているもので、時間外勤務手当とはまったく違います。本給の一部です。本給とみなして、期末・勤勉手当の額の算出基礎に含まれます。」

教員には原則として時間外勤務命令ができません。政令で定める基準に従い、条例で定める場合に限り例外的に時間外勤務命令ができる。修学旅行その他学校の行事に関する業務など限定4項目。(給特法6条1項) 勤務時間外に行った授業準備やテスト問題作成等、本来は業務とされるべきものが、自発的勤務と整理され、無定量の時間外勤務がなされているのが実態であり、給特法が機能していない点が大きな問題。教職員の健康・福祉に配慮した学校運営の責任は教育長と管理職にあります。ワーク・ライフ・バランスのとれた職場づくりをすすめるには、法令条例などに沿った職場ルールの確認は、欠かせません。

「愛媛教職員組合のホームページ」にてご視聴ください。



3 実践交流

1. 特別支援学級での取組 報告：加地 理司（中学校）

① 不登校A・Bの取組

保護者や本人と連絡が取れるように家庭訪問や支援会議等を取入れた。特に家庭訪問は増やした。本人や保護者が負担になるような働きかけは避け、待ったことも大きかったと思う。

② 生活単元学習の取組

生徒の希望もあり、授業にミニトマト、オクラ、ナス等の野菜の栽培を取入れている。作った野菜を販売している学校は多いが、本校は販売よりも作るときや収穫までの過程に重きをおいている。その中から学ぶものが多いと考えている。



ローソクとクリスマスツリーも作成

③ iPadを使った学力補充の取組

国語の漢字の書き取りの問題や社会の歴史問題に繰り返し取り組み、「使わせてほしい。」と申し出るなど、意欲的な面が出てきた。

2. LGBT 性的マイノリティーの人権 報告：堤 剛（中学校）

LGBTに関する教員研修用DVDを視聴（早稲田大学教育学部 金井景子研究室作成）

「先生にできること」 ～LGBTの教え子たちと向き合うために～

まずは、DVDをご覧ください。ことで、理解を深めるとともに勉強になります。

LGBTとは??当事者たちの声を聞く。LGBTの生徒が先生にしてほしいこと。現役先生に伺う「先生にできること」etc...。LGBTを授業の中で取り上げてきたベテラン教員の経験と目線から現場教員へ“伝えたいこと”を収録!

「先生にできること」は何か。

“その出発点の一つは、まぎれもなく、教師の「聴く力」にある”



発表の様子

4 講演

講師 木村 アンリさん・藤田 博美さん（プラウド）

※プラウド：性の多様性を尊重する社会づくりをめざし、LGBTに関する活動を行っている非営利団体

演題 「教育者として考えるLGBT」 — 気づいてあげよう、子どもたちのSOS —

【講演内容抜粋】

最近のニュースから、ノルウェー、6歳からの医療ケアなしに性別変更を認める決定。岡山家裁津山支部、手術要件を満たさない戸籍変更を認めない。（ノルウェーと日本の差に注目）

あなたの「LGBTフレンドリー度」チェックリスト ※あなたのフレンドリー度は？ はいくつ？

- LGBTという言葉聞いたことがある。
- LGBTという言葉の意味は概ね知っている。
- 「ホモ」「オネエ」「そっち系」などの言葉で笑いをとっていない。
- 「大人になったら結婚するものだ」という前提で話をしていない。
- 「男（女）だから〇〇だ」という押し付けをしていない。
- パートナーシップ制度を実施している自治体を言える。
- 同性愛と性同一障害の違いを説明できる。
- LGBTだとカミングアウトしている有名人を5人以上挙げられる。

- LGBT の知人・友人がいる。
- LGBT の人にカミングアウトされたことがある。

さすが愛媛教職員組合さん、チェックマークが多いですね！！

1、「性」の3つの要素

① 体の性（生物学的な性） ② 心の性（性自認） ③ 好きになる性（性的指向）

あなたは？ ①体の性 女. . . 男 ②心の性 女. . . 男 ③好きになる性 女. . . 男

LGBT用語 **L**=レズビアン（女性同性愛者）

G=ゲイ（男性同性愛者） **B**=バイセクシャル（両性愛者）

T=トランスジェンダー（性同一性障害、性別違和）

他にも分類があります。**Q**=クエスチョニング、**X**=エックス・ジェンダー、

A=アセクシュアル、**DSDs**=性分化疾患（インターセックス）



講演(会場)の様子

2、性的少数者の割合

人口全体の 0.8%? 3.5%? 5%? 7%? 15%?

最近の統計では（2015年）7.6%（電通ダイバーシティ・ラボ） **7.6%だと13人に1人**

愛媛県の人口は1,385,840人、約140万人で計算すると、3.5%で4万9千人、5%で7万人、7%で9万8千人。

LGBTと同じくらいの割合は…左利き・AB型・障がい者・日本人に多い苗字（佐藤、鈴木、高橋、田中姓の合計）でも会ったことない…どうしてでしょう？ほんとうは会っている。LGBTと言えない環境だから言えない。だから見えてこない。

同性愛の世界の歴史→18世紀（犯罪）・19世紀（病気）・20世紀（変態）・21世紀（人権）

日本においては緩やかな文化→（とりかえばや物語・ステータスとしての性分化・僧侶・高級武士歌舞伎・宝塚の存在と異性装文化・キリスト教・回教世界とは別の宗教規範）

3、LGBTの子どもが困っていること

・服装・髪型・更衣室・トイレ・呼称・体育・水泳・部活動・修学旅行・宿泊学習

子どもたちが出しているサインは、体育の授業を休む、または見学が多い。授業中にトイレに行きたがる。作文の時間が苦手（一人称の使い方、おれ・僕・私）。スカートを嫌がる。急に成績が落ちる。持ち物が社会的ジェンダーと反対の色。髪型を気にする。見えないところのアクセサリー。おしゃべりが急に増える。逆に喋らなくなる。バッグに付けるキャラクター。ハンカチの色。

LGBTで悩んでいる子どもたちは、ほかの子どもたちの行動と自分を比較して、他者との相違点を絶えず測っている。思春期の一時期、同性愛的傾向にある可能性もある。

2014年文部科学省の調査から、606人の報告例を調査、6割が対応できていない。→きめ細やかな対応を指示。

① 公表できない理由

差別される。偏見にさらされる。噂される。人間関係が崩れる（家庭、友人）。自分を否定される。

② 相談を受けた時

相談してもらえるような体制をつくる。話を聞く。否定しない。決めつけない。課題を一緒に整理する。他者に相談（共有）してもいいか確認する。

③ 校内でできる対策

廊下や校内の掲示板にLGBT関連のポスターを貼る。図書室や保健室にLGBT関係の書籍を置く。

授業中に LGBT についての話題を取り上げてみる。

④ 先生としてできること

研修会に参加する。性別にかかわるものを見直す。いろんな生徒がいることを前提に話をする。教師同士で意見交換をする。当事者探しをしない。校則の見直し。

職員の中にも LGBT がいる可能性が…当事者としての職員が働きやすい職場づくり。

⑤ 個人としてできること

LGBT イベントに参加してみる。LGBT の出てくる映画やドラマ、コミックをみてる。今日の話と同僚や家族に話す。「普通」や「常識」という言葉を疑ってみる。差別的なジョークは放置しない。男女の区別を見直してみる。

知っておいて欲しい LGBT に関する他の知識

- ① パートナーシップ制度 ② 同性婚の動き ③ 性同一性障害者に関する問題
- ④ 世界の LGBT に関する動き

“多様性を認め合う学校・地域社会・国を目指してお互いがんばりましょう”

《講演の感想》

- ◆ 今日の話聴いて、自分の認識が全く不足しているということ。生徒と一緒に笑っていたことが思い出された。いやな思いをしていたのに笑っていた（差別していた）ことなど、今なら問題となることを平気でやっていた（しゃべっていた）ことになります。自分を見つめ直すきっかけになって、良い研修でした。
- ◆ 「先生としてどう行動するか？」考えるよい機会になった。木村アンリさんの話し方が上手で、聴き心地がよかった。「LGBT について、小学生ではまだ無関係」という気持ちがあったが、木村さんが 10 歳で意識されたことを聞くと、決して早くないことがわかった。「私自身、何ができるか？」という問いに対しては、やはり学び続けなくてはいけないと思う。自分のことを振り返っていた先生、教職員集団の雰囲気大切だという話など参考になった。
- ◆ 今日の研修を受けてはじめて自分が無意識に行動してきたことがわかった。学校にいるかもしれないと思って、どの子も過ごしやすい環境を作りたいと思いました。

◆◆編集後記◆◆

学校現場で明日から使える充実した研修会になりました。“人の気持ちがわかる”ことの大切さを改めて強く思いました。

子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう!

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会（研究会）を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail jtuehime@lime.ocn.ne.jp
HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

